



© 2022. NURUE / SDGsWorks. All Rights Reserved.



SDGs せかい!動物かんきょう会議 in 下関 ~SDGs 世界! (海の生き物) 環境会議 (海と日本) ~

世界では、SDGsに取り組もうといわれ、校教区現場でも、探求学習に取り組むことになっています。子どもを中心に、地域と、学校が連携し合い子どもと一緒に育てる場が欲しい、自分の地域に愛着を持って欲しい、グローバルは視野を育みたい。世界とのつながりを意識させたいこれらの課題をクリアーに出来る提案を致します。

SDGs + 1 (子どもたち) 未来を担う人材育成

SDGsは「環境×社会×経済」の3要素で語られることが多く、SDGsの17項目をバラバラにして自分たちの活動をカテゴライズ(分類)するために使用されているようにも見えます。しかし、子どもたちが生きる未来社会の課題は17項目全てが関係し合っているということを忘れていませんか?

今の大人たちは、子どもの時にこのようなテーマを本気で考える体験をほとんどしてこなかったもので、子どもに聞かれても答えられないケースがほとんどです。そうならないように、子どもの頃からもっと本気でSDGsの本質と向き合う機会をつくりませんか?

「動物になってみる」すると「新たな世界」が見えてくる

「動物かんきょう会議」は、1997年の地球温暖化防止京都会議(COP3)と共に始まりました。「動物になって考えよう!」を合言葉に、世界の子どもたち、大学生、大人たちが、さまざまな動物や生き物の立場に立って参加します。そして、他者を尊重したり、認め合って、心を開いたコミュニケーションを重ねていきます。このような体験型ワークショップを通して、多角的な視点でものごとを捉え、未来の幸せな地球環境をつくる人材育成を目指しています。

「せかい!動物かんきょう会議」では、世界の状況を“各国・各地域の立場”、“さまざまな動物や生き物の立場”に立って、他者を尊重し、認め合い、心を開いてコミュニケーションを重ねていきます。このような体験型ワークショップを通して、多角的な視点でものごとを捉え、未来の幸せな地球環境をつくる人材育成を目指しています。先生、生徒の立場ではなく、一人の人間、一匹の動物になって、私たち人間の幸せ追求のせいで引き起こしたさまざまな問題と向き合い、解決策を考えていきましょう。

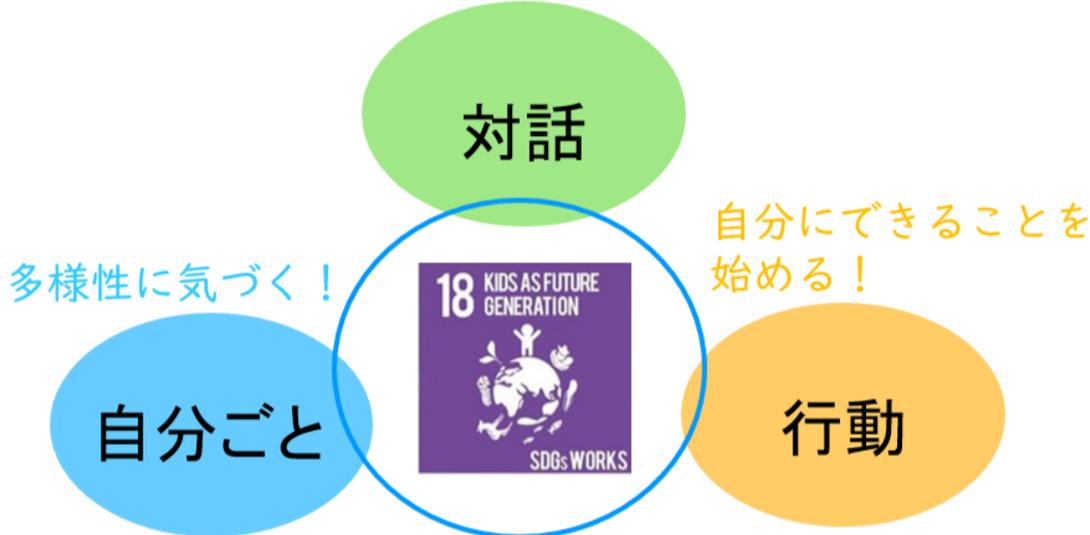
- ◇自己肯定感の低さ
- ◇主体性の無さ
- ◇グローバル視点
- ◇地域連携

SDGsの促進による、
地方創生にも繋がります

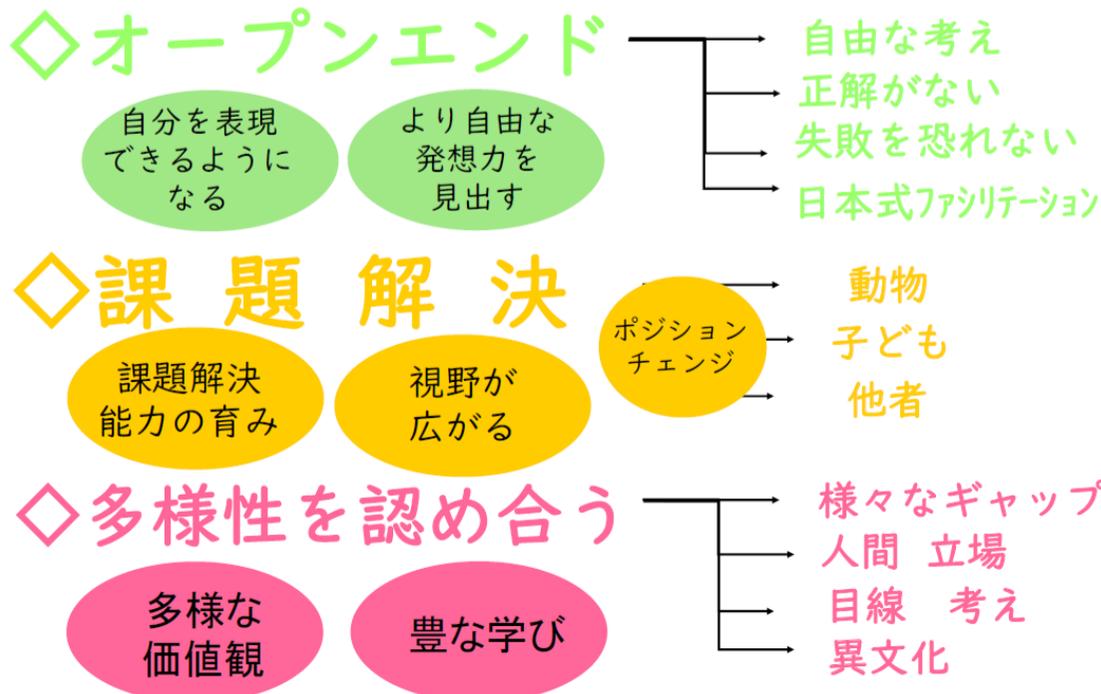
7

【せかい！動物かんきょう会議】の目的

ともに問う 話す 聞く 考える



動物かんきょう会議が出来る主な3つの効果



この動物（海の生き物）かんきょう会議の大切なこと。

今、教育現場では、大きく分けて4つの課題があります。私たちはキャリア教育で、いろんな学校からのヒアリングで、次の課題が圧倒的に多い傾向にありました。

まず、自己肯定感の低さと・主体性の無さです。「どうせ無理」、やる気が続かない、周りの目の気にして自分を表現出来ない。失敗が怖くて挑戦出来ない、やらされることに慣れてモチベーションが低いなどです。

次に、グローバル視点の取り入れ方や、地域連携についてです。これからの時代、グローバルな視点を身に付けさせたい、世界とのつながりを意識させたい。ネット通信を活用し、学習を深めたい。

子どもを中心に、地域、学校が連携し合い子どもと一緒に育てる場が欲しい、自分の地域に愛着を持ってほしい。

SDGsの指導にはなかなか手が回らない。課題は様々ありますが、今回提案する動物かんきょう会議は、これらの課題をクリアーに出来るワークショップです。

この動物かんきょう会議の目的は3つあります。それは【対話】・【自分事】・【行動】です。

1つ目が対話です。動物のキャラクターになり、地球環境について話し合い考えます。それぞれ動物の視点で語られること通して、さまざまな価値観を受け止め合い、豊かな発想力や、想像力、そしてさらに新しいものを生み出します。

2つ目は自分事です。自分でキャラクターを考えて、その動物になりきって、考えます。その為に自分の興味や経験、また知っている知識をひもづけながら、それぞれの動物が困っていることや、環境問題について語ります。環境問題というと、多岐にわたる大きな問題ですが、それぞれが動物になりきることで1人1人が、より自分事として、問題を考える事が出来ます。そして、他の動物の話をしつくり聞くことで、多様な立場、考え、視点、価値観があることを理解します。

3つ目は行動です。環境問題を自分の身近として捉え、考える事により、主体的に今自分が出来ることを見つけ、行動しようというものです。

また、動物新聞作成を通して、探求することにより、新たな問いが生まれ、自分との対話、また仲間との対話が始まります。

この様に対話、自分事、行動の輪が循環し、主体的に環境問題について考え、行動が習慣化できること、それが私たちの目的です。

私たちが動物かんきょう会議を通してできることは、オープンエンド・課題解決・多様性を認め合うです。

制限や枠がないオープンエンド的思考で、自由に考え、答えることができ、正解が無いので、失敗を恐れる必要もなく、自分を表現できるようになります。

また、日本型ファシリテーション「教えない・まとめない・仕切らない」を取り入れながら、枠を外し、より自由な発想力を見出します。

次に課題解決です。1人1人が自分事としてとらえた事で課題解決能力を育みます。動物・子ども・他者のポジションチェンジをすることで、視野も広がります。

3つめに多様性を認め合うこと、動物になりきることで、利害関係の無い、対等な立場で対話することができます。また、ワークショップの中で、さまざまなギャップ、人間、立場、目線、考え、異文化など多様な価値観を受け止め合い、豊かな学びを育みます。

世界共通のSDGsの問題に取り組み海外の方とも環境問題について考える事でグローバルな視野も育み、異文化交流や、国際コミュニケーションにも繋がります。

～また、海に面している下関市ならではの海の生き物について考えることにより、地球規模の環境問題も、より身近に感じ、日本、そして世界との海の繋がりを意識しながら、地元にも愛着が持てる人材育成へと発展させます～

自身について

日本は、いずれの項目においても9か国の中で他の国に差をつけて最下位となった。

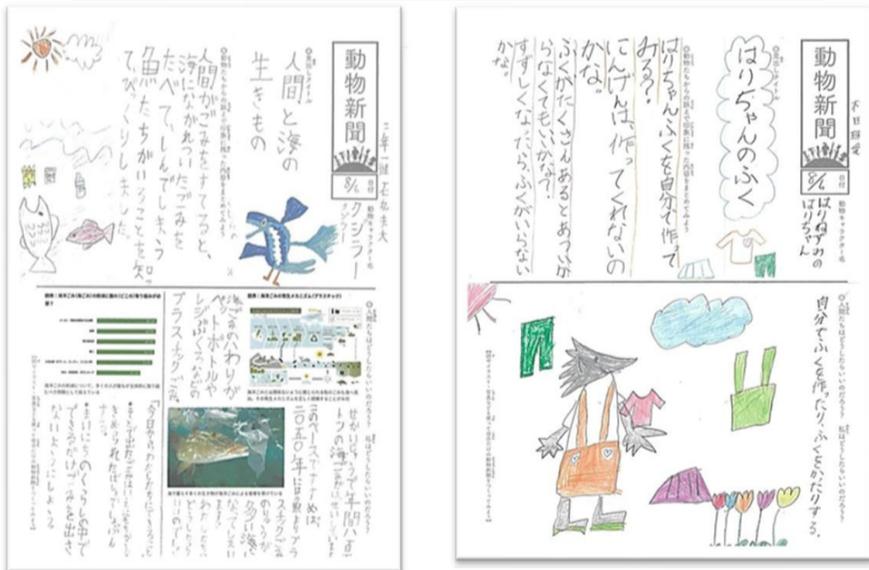
Q1 あなた自身について、お答えください。(各国n=1000)
(※各設問「はい」回答者割合)

		自分も大人だと思う	自分は責任がある社会の一員だと思う	将来の夢を持っている	自分で国や社会を変えられると思う	自分の国に解決したい社会課題がある	社会課題について、家族や友人など周りの人と積極的に議論している
日本 (n=1000)		29.1%	44.8%	60.1%	15.3%	46.4%	27.4%
インド (n=1000)		84.1%	92.0%	95.8%	83.4%	89.1%	83.8%
インドネシア (n=1000)		79.4%	88.0%	97.0%	68.2%	74.6%	79.1%
韓国 (n=1000)		49.1%	74.6%	82.2%	39.6%	71.6%	55.0%
タイ (n=1000)		65.3%	84.8%	92.4%	47.6%	75.5%	75.3%
中国 (n=1000)		89.9%	96.5%	96.0%	65.6%	73.4%	87.7%
イギリス (n=1000)		82.2%	89.8%	91.1%	50.7%	78.0%	74.5%
アメリカ (n=1000)		78.1%	88.6%	93.7%	65.7%	79.4%	68.4%
ドイツ (n=1000)		82.6%	83.4%	92.4%	45.9%	66.2%	73.1%

日本財団の調査によれば、調査を行った9か国の中で、回答した日本の若者は「自分は責任がある社会の一員だと思う」「自分で国や社会を変えられると思う」「自分の国に解決したい社会課題がある」社会課題について、家族や友人など周りの人と積極的に議論している」の設問すべてにおいて低い割合になった。
https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/eighteen_survey

本プログラムで、自分が考える望ましい社会を作る為に自分なりの回答を見出すことは、将来的に課題を解決する意識を醸成する第一歩になる。

動物新聞づくり (小学生プログラム)



SDGs Action Plan (中学生高校生プログラム)

Title

この国/地域/学校

今のワタシ

自分

“I”と“Me”

“ワタシ”の思い (クリエイティブの源泉)

あるべき社会

今の社会

社会

“あるべき姿” (夢のイメージ)

オプションプログラムとの連動

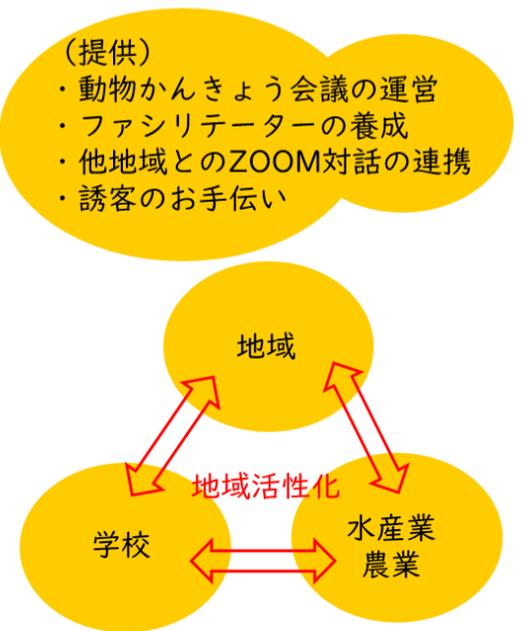
名称	教室プログラム	現地プログラム (オプション)	ZOOM対話プログラム (オプション)
主なテーマ	初のプログラム。SDGsとは?を理解し、人間の脅威をテーマ「対話」します	ゲストの困っていること (SDGs課題) に共感し「対話」します	参加者が考えを持ち寄りZOOMによる「対話」を深めます。他地域・他の国とのグローバルな視野を育みます
主な実施場所	小・中・高・高専・大学・学童	現地を訪れます (海響館・ホテルの里 ミニアジアム・ときわ動物園・秋吉台サファリランドなど)	ZOOMによる他地域・他の国との対話

1日4コマもしくは、2日間×2コマ、オプション2コマ程度
事前課題 または 事後課題有り
※プログラムは各校に合わせて、要相談

【地域連携】

ファシリテーターとして、地域の方々のお力が必要です。地域の、ファシリテーターを育成。自分の地域は自分達で…

- ★地域に愛着が持てるようになる
- ★コロナ等で仕事が減少した業種や、シニア世代のやる気にもつながる
- ★地域活性化や、地域産業の活性化につながる



(提供)

- ・動物かんきょう会議の運営
- ・ファシリテーターの養成
- ・他地域とのZOOM対話の連携
- ・誘客のお手伝い

